

日時：平成18年9月2日（土） 14:35～16:00

場所：日本橋社会教育会館 第一洋室  
東京都中央区日本橋人形町 1-1-17

出席：出席者 19名

畠山信孝26・佐々木章26・太田勝治29・石川正順29・宮腰興紀29・熊谷幸夫30・藤田道義30・高田政勝32・干場革治35・大塚進39・菅原涉39・小河範也41・庄内俊憲44・三浦洋45・真崎裕45・吉田真由美46・齊藤靖雄46・淡路和子55・福本円63

議事録署名人：齊藤靖雄46・淡路和子55

議事録作成者：吉田真由美46

## 1. 会長挨拶

太田勝治会長から、「昨年の総会参加者は100人に満たなかったもので、今年は100人を超えるようにしたい。また、当日来た人が次からもまた出たいと思えるように幹事は声を掛けてほしい」と挨拶があった。

菅原涉幹事長が議長を務め、幹事会の議事に入った。

## 【報告事項】

### 1. 総会案内状について（菅原涉幹事長）

幹事会に先立ち、総会案内状の発送準備作業が行われたが、その内容について菅原幹事長から説明があった。

今回の案内状は、封書と往復葉書の二種類とし、同窓会経費の節減に努めた。

封書を送るのは、過去9年間に1回でも総会出席、会費納入または出欠返信のあった人に対してで、案内を兼ねた会報誌と、返信用葉書、年会費の振込用紙を入れる。

往復葉書は、過去9年間1回も反応のない人に対してで、これも全員にではなく、1年おき、2年おき、または3年おきと分けし、経費節減の工夫をした。

ただし3年に1回は必ず案内が行くようにする。

これらの人で返信があれば、次回からは封書発送に組入れる。

今年の発送数は、封書が451名、往復葉書が660名で、合計1,111名。これは住所を把握している会員のほぼ60パーセントにあたる。

なお、往復葉書は官製葉書をやめ、返信の料金が受取人払いとなるように工夫した。

### 2. 会報誌制作にかんする報告（広報委員会 三浦洋副委員長）

会報の編集は、三浦副委員長が中心となって当たった。

少ない作業量で内容のしっかりしたものができたと思う。その理由として、つぎの点があげられる。

日頃から幹事会、五日会、ブログなどで会員同士の情報交換が活発であった。  
ホームページ等で蓄積した情報や写真を有効に再利用できた。  
記事の寄稿や編集作業が電子メールを活用して迅速にできた。

## 【審議事項】

### 1. 総会当日のスケジュールについて（組織委員会）

小河範也副委員長から、式次第について組織委員会のプランが説明された。  
それに対して質疑応答があり、次のような提案が出された。  
後日、組織委員会を中心に再度打ち合わせをして詳細を確定することとした。

総会議長には、石井喬副幹事長を選出したい。

総会の時間を45分程度に収めるために、来賓の紹介は懇親会のほうに移す。

ゲストの林家たい平師匠に対して、事前の資料提供、打ち合わせが必要である。

懇親会はたい平師匠が登場するまで約2時間あるので、その間のアトラクションを検討したほうが良い。

初参加者には全員で気を遣ってあげたいので名札カードで識別出来るような工夫をして欲しい。

幹事は、参加者が来年も来てもらえるように全体に気をつかうべき。

司会は、総会を和平忠幸47期幹事、懇親会を田村盛仁49期幹事に依頼したい。

### 2. 18年度決算について

菅原幹事長から、「平成18年度収支決算報告書」が配布され、その説明があった。  
まだ詳細の確認が残っているので数字の変更の可能性はあることと、昨年の規約変更により、今年度は事業年度が平成17年10月1日～平成18年8月31日と例年より1か月短いと説明があった。

#### 収入の部

前年度までの経理処理で年会費・懇親会費の前倒しなどが見られ、今回の事業年度の変更により一部不都合な状況が起こっている。昨年・今年・来年と3年間をならすと問題は解消するが、今後は適切に処理していきたい。

「幹事寄付金」は、他校等との交流行事に出席した幹事が参加費を負担したものである。

「広報紙広告料」は、昨年度掲載のものが本年度入金したものである。今年度は広告を募集していない。

当期の収入は、当初予算に対して523,018円少なかった。

#### 支出の部

「総会案内・会報送料」が少ないのは、会計年度の変更により次年度にまわる物があるため。

「交流費」は、収入の部の「幹事寄付金」でまかなわれており、実質出費は本校事

業出席のための交通費助成（40,000円）のみである。

「消耗品費」が極端に少ないのは、経費科目を細分化して厳密に適用したため。

当期の収支は、この集計段階で142,499円の赤字であった。先の幹事会で「同窓会だより」を出すことが決まっていたが、大幅な赤字の見込みになったため、発行を控えた。その代替策として会報誌に、「幹事会報告」と題して約4ページのスペースをとり、同窓会の活動状況を掲載した。

詳細確認を行い監査を受けることで本件は承認された。

### 3. 19年度予算の編成について

菅原幹事長から、「平成19年度予算案」が配布され説明があった。

#### 収入の部

「総会・懇親会費」は、100名の出席（男性85名、女性15名。なお昨年度は88名の出席）を予定したものである。

「年会費」は150名で設定。これは過去5年間の実績による。

#### 支出の部

「総会・懇親会開催費」が増加しているのは、参加者が増加した分を、昨年度経費の案分比加算を見込んだため。

「総会案内・会報送料」は今年度様々な工夫したので例年よりも大きく減らせる見込み。

新たな事業としては「同窓会だより」の予算が計上された。

収入部分は厳しめに、そして経費部分は例年の実績に基づき組んだところ、19年度予算は187,500円のマイナスの見込み。事業内容を必要最小限まで見直したが前述の数字となってしまう。

以上の説明をした上で

「このままの赤字予算を計上するか」「年会費等の収入見込みを高め設定して収支均衡の予算にした方が良いか」を皆さんで討議頂きたいと質疑応答に入った。

#### 質疑応答の主な意見

畠山監査役 会費は集まるまで実際のところはわからないので、赤字のまま予算を出したほうが良い。会員の皆さんに問題点が見えるのでいいと思う。

菅原幹事長 予算案の数字はどうしても作れるので均衡予算にすることは容易いが、会員の皆さんに同窓会の財務状況の実態を知ってもらいたい気持ちもある。いろいろ工夫してもどうしても赤字なので、例えば広告掲載等の形で寄付をお願いしたいとした方が、皆さんの協力を得易いのではないかと思う。

石川幹事 初めから赤字の予算案というのは見たことがない。総会で会員が納得できるような説明ができるのか。

この他細かな点につき色々と討議を重ね、最終的に次の様に纏まった。

今回は予算実態が赤字であれば、それをそのまま会員に説明する。

総会で質問が出てもしっかりと説明できるように対応を準備する。

事業内容を大幅に見直した成果が、来年度どのように出るかを見極めてみたい。

まんいち結果的に赤字であっても繰越金があるので、今回は実態を見て欲しいという意味で、これでやってみよう。

会報誌の製作や発送費等の節約はすでに実行している。あとは、同窓会だよりの発行回数を減らす、広告費を削るなど、可能な部分を再度検討した上で最終案を作成する。

以上を述べて賛否を問うたところ全員賛成で承認された。

以上で審議はすべて終了し、議長は閉会を宣した。  
上記の決議を明確にするため、議長及び議事署名人はこれに署名する。

平成18年9月2日

議 長 幹事長 菅 原 涉 \_\_\_\_\_

議事録署名人 幹 事 斉 藤 靖 雄 \_\_\_\_\_

議事録署名人 幹 事 淡 路 和 子 \_\_\_\_\_